

る。

二、さえんばの蔬菜つくり

戦時中から米の供出制が実施され、共同出荷は、強制出荷などになつたこともあるが、稻作はやはり日本の農業の主幹であつたから、千年一日といわれた慣行農業も、大正・昭和にかけて大飛躍をしたことになる。



くち果てようとしている米搗き臼
(田村山にて)

米を白米にすることは、恐らく鎌倉時代頃から覚えたろうといわれているが、この米搗きは専ら臼の手搗きであった。これが水車の廻転機械を利用するようになったのは、機械化への飛躍であったが、こ



本田の農業倉庫前に野積みされた米俵 (41.11.4風景)